

○ 竹田久美子 横浜国際福祉専門 袖井孝子 お茶女大生活 細江容子 共立女大
 長津美代子 青葉学園短大 大塚洋子 お茶女大生活 福島裕子 お茶女大生活

【目的と方法】 定年退職した教員たちは、自らの人生と教師という職業についてどのように感じているのだろうか。「これまでの人生を振り返って、最も心に残ったことを自由にお書きください」「教師という職業についてあなたがお考えになっていることにお書きください。」という2つの質問への自由回答の分析から、彼らの人生観と教師観について明らかにすることを目的とする。

【結果】1. 人生観 教員時代の努力と充実感・満足感の記述が多く、教員に就いていたとが人生において大きく位置づけられていること、また肯定的に受けとめられていることがわかる。家族に関しては、男性は子供の誕生や結婚など家族の喜ばしい出来事をあげる者が多いのに対し、女性は家族の病気や介護や死などをあげる者が多く、仕事と家庭の両立に悩み、苦勞したことがうかがわれる。日本の教育や教育行政への批判や、人生を通して得た教訓・信念などの記述は男性に多く、男性は現実的な家族の問題よりも社会に関する問題や理念的な問題に目を向けていることがわかる。2. 教師観 教師という職業については、男性は肯定的な評価が多いが、女性においては肯定的評価と否定的評価が均衡している。教師を取り巻く環境として、管理体制の強化や社会の理解・協力・信頼の弱화가あげられており、社会情勢の変化と共に教員の社会的地位や役割の変化が意識されている。男性は、教員として大切なこと、あるべき姿を主張する記述が多く、内容も、教育愛・教育理念・向上心など理念的な事柄を重視する傾向がある。それに対し女性は、健康や子供との触れ合いなど、実際的な事柄を重視していた。

人生観・教師観共に男女による性差がかなりあることが明らかである。